

## 第34回「ハートミーティング」意見交換の内容について 「構造計算に係る自己研修」プロジェクトチーム

---

### ★参加メンバーからの主な声

- 研修会は、講師役の中堅職員が、若手職員に対して講義を行う形で進めている。受講者のスキルが上がるだけでなく、講師側にとっても、非常に勉強になるよい機会だと思う。
- 人事異動により、構造審査の担当から外れると、大枠の理解はできても、細かい規制等については忘れてしまいがちになる。それを防ぐためには、日々の積み重ねが必要であり、そういった視点からも、意義のある研修会だと考えている。
- 建築技術職は、デザインのチェックから計画策定、政策立案など幅広い分野を扱い、業務も多岐に渡るが、構造はあらゆる業務に多かれ少なかれ関連している。構造計算の業務に携わっていない場合でも、構造を理解していないと話ができないことが多く、「構造的な感覚」を身につけることが大切だと思う。
- 民間では耐震に係る新工法の開発が積極的に行われており、市役所にはそれを支援する体制づくりが求められている。そして、職員が、一層幅広い知識と高い技術を身につけ、適正に指導するとともに、市の建築物を建てる際にも、そのような工法を柔軟に取り入れていく必要がある。

★市長からのコメント

- 建築は、数学や物理といった数値の世界だけでなく、芸術や文化、デザイン、心理学、更には自然とのかかわり方や人間の生き方にまで関わる奥深いものである。
- 特に、構造は建築の根幹であり、私自身も、学校等の耐震化に携わる中で、構造上の安全性を確保しながら京都にふさわしいデザインや実用性を備えることの重要性を痛感した。建築の奥深さが感じられる大変有意義な研修会を行っていることに感謝する。
- 建築技術職は、建築技術の専門分野だけでなく、まち全体のあり方を考えられるような幅広い視野を持つことが大切である。京都市には、町家や文化財をはじめ建築財産が豊富にある。本市で建築行政に関わった者は全国どこでも通用する。皆さんにはそうした自負を持ってほしい。
- 世界に誇れる安心安全なまちづくりを進めていくためには、常に市民目線で、第一線で現場を見ること、問題意識を持つことが大切である。
- 構造とデザインの両面でゆずれない部分と妥協できる部分を融合させて、京都の街並みを保全しながら耐震化を進めることが重要である。